

## 素晴らしい考えで膨らむ頭×行動 0 = メタボ頭のネコ

—北大路廬山人の「料理の第一歩」から—

小木晴代

—相談室<sup>ベター</sup>・デイズ<sup>・</sup>SPLASH カウンセリングルーム—  
h-ogi@s8.dion.ne.jp

一人の男がいた。女房が去ってしまった後は独りで暮らしていた。その男はこんなことを考えた。「まず土地を見つけることだ。よく肥えた土地を。そしてそこへ野菜を植えるのだ。毎日野菜が食べられるぞ」。けれど、男は土地を探すことをしなかった。家の中でごろごろしていた。それでも、お腹がすいてくるので、パンをかじった。

男はある日、こんなことを考えた。「野菜もいいが、牛を飼うのだな。そして、豚も飼うのだな。おいしい肉が食べられるぞ」。でも、男はなにもせずごろごろしていた。お腹がすいたので残りのパンをかじっていた。その男の頭が、なんだか少しふくれているようだ。

ある日、男は考えた。「女房がいなくても、ちゃんとこうして食べていける。待て待て、自分で料理だってできるぞ。そう動きまわらなくとも、手をのばせば用事ができるような便利な台所をつくることだ。清潔な明るい台所を」。だが、男は実際はなにもしなかった。

お腹が減ってきたので、パンを食べようと思ったが、もうパンがなくなったので、米びつの米を生のままかじって考えた。「待て待て、台所もいいが、それより先に、働きやすいような、身軽な服装をこしらえることが第一だな」。

それでも、なにもしないで、女房が部屋のすみの棚に置いていたりんごをかじった。その男の頭が少しふくれたようだ。「そうだそうだ、果樹園を作ろう。新鮮な果物を木からとってすぐ食べることはすばらしいぞ」。でも、男はなにもしなかった。そして米びつの米をかじった。

こうしてこの男は考えてばかりいるうちに、だんだん頭が大きくなっていった。少しも働かぬので、手や足はだんだん小さくなっていった。(途中略)

この男の考えることは、一つも間違ったことはなかった。ただ一つも行わなかっただけである。世の中には、こんな頭の大きい男がたくさんいる。(以下略) (茨城県取手市インストラクター)

